

平成28年度 まちづくり懇談会

中大塩地区会場の要旨

平成28年11月10日（木） 19:00～21:10

中大塩地区コミュニティセンター 参加者 66名

市長あいさつ

市長：八ヶ岳が白くなりまして、一気に冬の気配が近づいてまいりました。昨夜はトランプさんが大統領になったということで、世界中に衝撃が走ったのではないかと思います。今度の選挙であったり、イギリスの国民投票であったり、第2次大戦後70年築いてきた国際秩序が、新しい全世界的な秩序を求めている、そんなときなのかなと返す返す思うわけでございまして、他の言い方で言うと、不確実な時代かなと思います。国内で市の仕事をしていまして、非常に不確実性が高くなってきている。あまりいい状況ではないなと感じています。それに引き換え、ここに小宮の写真がございまして、私もお招きいただき、どの柱にも関わらせていただきましたけれど、確実に絆を深める確実性の写真かなということをはほ笑ましく見させていただきました。本日はお寒い中、そしてまた一日のお疲れのところまちづくり懇談会にご参加いただきまして、ありがとうございます。今年のテーマは、「茅野市の未来予想図 大いに語ろう」ということで、10年後茅野市が、また中大塩がどんなまちになっていけばいいか、そんなことを大いに語り合いたいと思いますので、どうぞよろしく願います。2時間弱の短い時間ではありますが、有意義な時になりますことを願ひまして、あいさつとさせていただきます。また後ほどお話をさせていただきます。

中大塩地区区長会長あいさつ

中大塩地区区長会長：みなさんこんばんは。お疲れのところ、また、お寒い中お集まりいただき、誠にありがとうございます。先ほど市長さんの方からありましたが、いよいよ冬将軍が来たということで、朝夕めっきり冷えてきました。皆様も健康管理に気を付けていただきたいと思います。今年は御柱の年ということで、1年間御柱一色というような感じで過ごしてきたかと思ひます。小宮祭も皆さんのお力をお借りして無事に終わることができました。また、市長さんにもお忙しい中ご参加いただき、盛り上げていただき、この場をお借りして心から厚く御礼申しあげます。ありがとうございます。今日はまちづくり懇談会、通称まち懇でございますけれど、中大塩地区は他の9地区と若干違うところがあるかなと思ひています。それは私もそうですが、茅野市以外からここへお住みになっている方、あるいは、各都道府県からきてここへお住みになっている方、そういう方が大部分ではないかと思ひています。そういう中で、それぞれ生まれ育った環境が違うかと思ひますので、どきどきわくわくしたような意見交換ができればいいな

と思っています。2時間という短い時間ではございますけれど、どうかみなさん10年後の茅野市の構想を描きながら意見を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

—テーマと資料の説明 内容は宮川地区を参照—

意見交換

市民：私の知人で、いくつかの洋食レストラン、輸入雑貨の店を経営している方から、新しい店を出そうかなという話があった。茅野は自然もあるしいところだぞと、と話をしたら、知人は、2週間くらい投資コンサルタントを雇って調査をした。詳細は見せてもらえないが、結果を聞いたら、投資環境としては、5段階のうち2だということで非常に低い評価だった。私の住んでいる所がそんなに低いのかと話をしたら、生活環境とか、観光を主として投資をしようとしている人なので、観光だとか、住環境ということでは非常に評価が低いとのこと。なぜかと聞いたら5分くらいで走れるところを、朝晩は30分近くかかる。昼間でも10分15分かかることは珍しくない。そんなところに観光客がこれ以上に本当に来るのだろうか。人が移り住んでくれるのだろうか。会社が出てきてくれるのだろうかということを考えたら、将来性は低いということだった。そのコンサルの方が聞き取りをやったらしくて、観光客の方に向かって何かと話をしたら、自然環境は非常にすばらしい、ビーナスラインという名前は非常にきれいだけれど、実際には、パッチワークアートラインというのがいいのではないかと言われたという。つぎはぎだらけのパッチワークの様な道路で、しかも渋滞していてパッチワークをゆっくり鑑賞することができるということだ。非常に寂しい話だった。そういうようなことで、外部の評価はそれほど高くない。そんな混んでいるところで毎日何十分も時間をかけて通勤するのはいやだと思うだろう。やはり住環境にもっと力を入れないと、観光にも影響するし、移住も少なくなるだろうし、企業数もほとんど増えてこない。もっと基本となるところに力を入れていった方がいいのではないか。

市長：観光でいえばまさにそう。高度経済成長時代には放っておいてもお客さんがきた。別の見方でギャップ調査と言って、昨年かなり大々的に調査をした。蓼科であり、ビーナスラインであり、車山霧ヶ峰であり、50代後半から上の人たちには相当認知度が高い。そして、必ず若いころ行った思い出を持っている。7割近くの方が1度は若いころビーナスラインを彼女と一緒に走ったよとか、スキーに行ったよとか、林間学校にいったよという経験者。しかし、20代30代の人には、2割くらいしか認知度がない。60代70代の人を主とすると、少なくともあと10年すると旅行に来られない人になってしまう。こういう人たちにこの地域は支えられている。あと10年、持って20年。20年したらこの地域のファンであった人たちがいなくなる。そうすると今300万人位来ている

が、来る人がぐんと減るだろう。ここで手を打っておかないとこの地域の未来はない。そういうこともあって、観光を切り口としたまちづくりを本年度から進めていく。観光を進めてきた母体として観光協会があるが、観光協会は観光事業者の集まりで、もうそれだけではだめ。DMOというのがあるが、観光事業者だけではない観光推進機構を30年4月にスタートさせようと今準備を始めている。住んでよし、訪れてよしという観光地域にしていかなければ未来はないだろうなという危機感を持っている。朝晩の交通渋滞だけを見て、住環境が悪いと言えるかどうか。そればまた別の問題だと感じた。そういったことで、この地域を訪れる観光客の皆さんを茅野市ブランド、蓼科ブランドのファンにもう一度していかなければいけない。そんな取り組みをこれから進めていく。10年後はそれができているという絵なのでよろしくをお願いします。5段階の2という結構ショックだね。

市民：本町から自転車に乗ってきて鬼場の橋のところをビーナスラインに向けて左折してきたら、自転車が走る場所がなくなっていきなりガードレールがあり道が狭くなって、トラックにぶつかりそうになった。これでは自転車に乗る観光客は来られないという話があった。そういうところも観光客に優しくない観光地ということだと思う。

市長：あそこは自転車だけではなく非常にポイントになる場所で承知している。ビーナスラインも県の方と舗装の打ち直しを順次しているので、ひところよりは良くなっていると思う。観光地域では、道自体も観光素材でないといけない。よく承知している。ありがとうございました。

市民：社協の関係をやっているが、ゆいわーくの開設に非常に期待している。将来明るい感じがする。私も参画していろいろ試してみたいし、茅野の発展につながればいいなと思っている。福祉の関係はあちこち研修や、それぞれの地域の福祉団体の人と話す機会があるが、その時に茅野でやっているということを見ると、茅野は福祉の先進都市だと。すごいことをやっているという話を時々耳にする。市からはいろんな発信がなされているいろんな計画を立てて努力していることはよくわかるが、自分の実感ではそんな素晴らしいことを実施しているのかなと。全国各地の都市がいろんなことに挑戦しているので、その中でも茅野が取り立ててすごいという実感はなかった。茅野市が福祉で非常に優れたという評判をよく聞くが、どうなのか。そういう風に言われていたけれど今は下火なのか、どんどん進歩しているのか。これからの課題にもつながっていくと思うが、その辺のことを聞かせていただければありがたい。

市長：茅野市で福祉21茅野ができて、取組は日本の先駆けだった。今は地域包括ケアということで、日本全国でその取組は始まっているが、モデル的にやってきたのが茅野

市。その拠点として4つの保健福祉サービスセンターをつくり、そこでワンストップで福祉サービスができるというのをつくってきた。それを追いかけるように国が整備をしてきた。今の私たちはその水準にいるということがある意味当たり前になってきているということでもあると思う。それをさらに地域の支え合いをいかに進めていくかということで、地域福祉行動計画をつくり、福祉推進員を配置して。完成形ではないが、これがこの図（地域や家族で支え合う仕組みづくり）だろうと思う。これには公的な福祉サービスや医療サービスは入っていない。これは当然行政がしていかなければいけないサービスで、そればそれであつたうえにそれだけでは補えないものを社協のみなさんと連携する中で、支え合いをしていくことが必要になってくるだろうと思う。行政なり公がしていかなければいけないサービスと、社協を中心に隙間を埋めるサービスとがあり、それでもまだ補えない身近なところの支え合いを区・自治会でやっていく。それが理想形だと思っている。しかし、ある意味これが一番難しいことだと思っている。入区という問題も当然これに絡んでいる。その難しいところに今一丸となって挑戦をしているというのが私から見て茅野市の立ち位置かなと思う。高齢者福祉ばかりではなくて、子育て支援においても、茅野市は結構やっている。茅野市に来るとしっかり子育て支援をしてきているからといって、諏訪から茅野に移ってきて、茅野の保育園に入れるというご家庭は多い。ただその分結構手を掛けていかないといけなくなってきているというのも現実だが、茅野市はその旗を下げるつもりはない。そんな形で取り組んでいると思っている。

市民：子育て、幸せ追及ということは、単に一地域のことではなくて、日本全国がそれぞれ少しずつ努力して幸せになっていくというのが正しい方向だと思う。各地域でこれだけは一番だとか、それぞれで一生懸命頑張って、取組がテレビで報道されたりして知られるようになる。そういったほかでやっているいろんないいことを、ゆいわくで情報発信していただき、私たちが活用できればいいと思う。茅野市のここが一番というものを沢山増やして全国に茅野市の名前が広がるようにしていけたらいいと思う。

市民活動センター長：話が少し違うかもしれないが、今日高校生が来てくれた。彼女は今受験で、県外の大学を希望しているようだが、その子が4年経ったらまた茅野市に帰ってきたい。社会福祉士になりたいという大きな希望を持って来られた。前の仕事でもそのような学生たちともかかわっていたので、そんな話もして、これからの茅野市の若い担い手一人一人に関わりを持っていただけるような空間もぜひ作っていきたいと思っている。若い人たちが何かやりたい、何かやれることがある、そんなまちになるといい。大学時代には県外に行っているが夏休みにはこちらに来る、そんなわくわくするような企画が生まれてくるといいと思う。若者が関わることで高齢の方たちも刺激を受けてすごく元気になる、そんな姿も前の仕事の中でさせていただいている。若者にとって

も、高齢の方にとっても、ゆいわーくに行って元気になった、ゆいわーくと関わって元気になったというふうになればいいなと、いろいろ取り組んでいきたいと思う。ぜひ応援していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

市長：コミュニティのさらなる充実と掲げた。小宮がそうだが、なぜ御柱にはみんな出てくるのか。これはすごいヒントだと思う。神事ではあるがみんな神事をやっているとは思っていない。ひとつの目標に向かって黙々とみんなが力を発揮できる、子どもからお年寄りまでが理屈抜きで取り組める。一つは楽しいからということがあるだろう。楽しくなければ出払いとして出不足金でも取らないと出てこないのだから。楽しいことで、みんなが繋がれるという、このゆいわーくも一つの売りはそこにしていかなければいけないと思う。毎年御柱をやっていたら疲れてしまうし、難しい。ヒントはそこにかんがりのものがあると思う。

市民：茅野から離れた山にいったときに、どこからきたのという話になると、「諏訪です。」といっても皆さんぴんとこない。「蓼科の入口です。」というふんふん。「八ヶ岳のすそ野からきました。」という「いいところだね。」と言われる。こうされると嬉しくなる。いつまでもそういう八ヶ岳であってほしいと思う。ゆうゆう館を利用させていただいている。全国であれだけの施設にただで入れていただけるところはないと思う。ゆうゆう館に入るのに、名前、住所、電話番号を書くのは当たり前なことだと思うが、それに対して、あれがいけない、これがいけないという人がいる。これまで1枚の紙に1人1行ずつずっと書いていたものが、一人ずつ1枚の紙に書いて投票箱に入れることになった。資源の無駄遣いだと思う。ただで入れてもらって、家のお風呂のお掃除もしなくて、温めもしなくて入れていただいているところを何で文句を言うのと思った。市長に直接言って変わったようだ。それはないなと思う。そういう不公平さはなくしていただいて、大切に入らせていただこうと思う。先日、ゆいわーくの件で福島センター長と話をさせていただいた。とてもいいお話で、ゆいわーくで茅野で市民が繋がったらいいなという思いを持った。先日、地域のはなみずきの会で、太極拳や笑いヨガをしたいという話が出た。それを会に取り入れたい場合は、ゆいわーくに行けばいろんな団体がわかっているからつなげてくれる。目的がなくても、街に出たら帰りに寄ってみてほしい。地域を支えていくには我々世代が支えていかないと、若いものに元気なまちが譲れないから、みんなでがんばろう、と話をしたところだ。

市長：ゆうゆう館利用の際の名前は、以前は1枚の紙に書いてもらっていた。そうすると誰が来たといういわゆる個人情報の問題がでてくる。基本は、そこはなるべくきちんと対処していかなければならない。お気持ちはよくわかるし、悪いことをしているわけではないから、また来ているのかと友達になるくらいの環境であってほしいとは思いますが、

この問題はかなりデリケートな部分がある。ということで紙の無駄遣いになるとは思うが対処した。茅野市には、蓼科、奥蓼科とたくさん温泉はあるが、皆さんは行ったことがあるか。いい意味でひなびた温泉がある。いいところなので是非1回は行ってほしい。茅野市民が市内にあるいろんなものをもっと知って活用することで磨かれると思う。市街地にも面白ところはあるし、集落ではホットステイといって農村体験をやっている。新しい発見をする、そんな視点でいかなければいけないと思う。

市民：先ほど、八ヶ岳はいいところですねという話があった。昔はビーナスラインや蓼科はテレビにも出ていた。蓼科はブランドと言ってもいいような名前だった。私は宿泊施設で仕事をしていて、信州は高原があって、山があって、湖があっていいねと言われた。茅野に住んでいると、そこに八ヶ岳があるのが普通、湖があるのもいつもと変わらない。それを誰かに新しい目で見てもらって、茅野にはこんないいところがあるじゃないかと。過疎化や担い手不足は全国的な問題。中にはそれに対応して住民数を増やしているところもあるはず。今回、松本も人口が増えたということだが、なぜ松本の人口が増えたのか。日本の中で少子化の村だが、子育て支援が充実していて、他県からどんどん住民が入ってきていて人口が増えているというところもある。なぜそのように増えているのか。全国的にいろいろなところに目を向けて、いいところは取り入れる。あとは茅野の中でアレンジをして、いいものは取り入れる。理科大もあるので、若い人の視線もどんどん使って。最近蓼科という名前を聞くことはほとんどない。茅野を「かやの」と読むんですかということさえ聞く。もう少し情報発信と、逆に外からのいいこともどんどん取り入れていっていただけるといいと思う。

市長：観光の問題となるといつもそうだが、軽井沢のように一つに括れるといい。茅野の場合、観光から売ると茅野ではない。蓼科であったり、八ヶ岳であったり一つではない。蓼科高原ということで一時期売ったが、蓼科は蓼科で、車山は車山でそこそこ有名。一つに括れば蓼科かなと思うが、今ネームバリューは八ヶ岳の方がヒットするかもしれない。観光で押していくときは茅野ではない。茅野という観光地はない。しかし、茅野市。茅野市でなくて蓼科市であれば問題はない。蓼科市で蓼科といけるが、茅野であって蓼科であって、白樺であって八ヶ岳であって、ある意味非常に贅沢な悩みではある。諏訪市は諏訪湖で諏訪市だからイメージしやすい。市を売れば諏訪を売って諏訪湖を売ることになる。茅野の場合は茅野を売っても蓼科を売ることには直結しない。茅野駅ではなく、蓼科高原駅にしたらというような提案をいただくが難しいテーマだと思う。おっしゃるようないろんな形でシティプロモーションしていかなければいけないのも事実。かといってあれもこれも取り入れるとなんだかわからないものになってしまう。やはり、茅野らしいもので発信をしていくということかと思う。一つ大きな切り口になるのは縄文かと思う。京都など限られたところ以外で、特に5万都市くらいで国宝が2つ

あるというところはない。これも大事にしていかなければいけないと思うが、発信していくのはなかなか難しいと思う。縄文科は取り入れてから3年目となるが、不寛容な世界を救っていく縄文の精神は、キーワードになると思っている。そんなことで縄文プロジェクトを進めている。来年は第0回ということで、八ヶ岳縄文フェスティバルを開催する。3年に1度で、第1回が東京オリンピックの年になる。縄文は日本よりヨーロッパで認められているので、オリンピックに来た外国人をごっそりとこの地に引き寄せてくる吸引力があるものに第1回目には仕立て上げたい。第0回を来年やる予定なので、皆さんにいろんな形でご理解いただき、PRしていきたい。

市民：16年前に東京から茅野に移住してきた。現在、5年生と2年生の子供を育てている。子育てにはものすごく環境が良く、毎日茅野に感謝しながら暮らしているが、条件が1つあって、大人であれば一人1台車を持っていての住みやすい場所。子どもと、いずれ車を降りられる高齢者が足を奪われていくような状態になっていくということを考えなくてはならない。1人のお子さんを1台の車で送っている。それが渋滞を招いたりすると思う。あちこち好きな温泉に好きにいかれるようにとは言わないが、せめて病院から買い物、駅など日常生活に必要なバス路線の充実を今後考えてほしい。バスの関係者の方に相談したところ、空気を運んでいるくらい乗らないからバス代が高くなり、高いから余計に乗らないということらしい。母親同士の話では、例えば、サポーター制度などでいくらでも子供を持つ親が援助金のような形で出しても、バスの本数があって、使えるようなものになるならいい。いつか乗れるという安心感がほしいよねという話をしていた。広く皆さんから集めるような形であっても、今後バスは今以上少し便利にしてほしいと思う。

市長：公共交通の問題は、皆さんがおっしゃることはよくわかる。そうしていかなければいけないというのもよくわかる。実際乗ってこそその公共交通だが、今日お越しの皆さんで、この1か月バスに乗った方はいますか。おひとりですか。これが現実。確かに高齢者になったり、車を運転できない方にとっては、切実な問題ではあるが、やはり車を運転できれば、マイカーほど便利なものはない。だからそれを使う。特に茅野市の田舎の方はドアトゥードア。ちょっとそこまでたばこを買いに行くのにも車を使うという生活をしている。茅野市は車が運転できると便利ないまちだが、車を運転できなかったら本当に不便なまちであるのはわかっている。そういう中でこの10月から少しダイヤ改正をした。それでも限られた予算の中で、前よりは少しでも便利になる体系ということで今回バスの見直しをした。前より不便になったところも聞いているので、検証してさらにいい形にしていきたい。これをやればOKというものがない。お金さえつぎ込めば、かゆいところに手が届く。究極でいえば、市が持つから、バスではなくてみんなタクシーを使っていえばよとすれば一番便利。それだけ金を使う気になればできることだが

そうもいかない。いろんな検討は常に重ねていく。こうしたらもっとここが良くなるといったご意見をお寄せいただきたい。ただ便利にといわれてもなかなか難しい。市の職員も結構頭を悩ませているし、バス会社も公共交通ということで大きな責任があるので、もっと頑張ってもらわないといけないと思う。いずれにしても乗らない。乗らないと残らないというのがある。

市民：1回乗ると往復1000円超えるという話を聞くと、お母さんが送っていった方かという話になるらしい。実際乗るか乗らないかはわからないが、月々1000円払うと乗り放題など、広く資金を集める工夫もあつたらお母さん方は出すと言っているので検討してほしい。

市長：理科大は今それをやっていて、理科大生は2000円で学校と大学だけではなく、他の路線もフリーパスというのがある。そんなイメージだろう。

市民：ゴミ問題について。私の組の中で、可燃物ごみの中に、缶、びん、不燃物を投かんされる問題がここ2か月ほどずっと続いていた。10月の区議会でも報告したが、今週の火曜日にやっと解決のめどが立った。近くにアパートがあつて、そこに外国人労働者が住んでいる。なかなか外国人にはごみ出しなど理解されない部分がある。回収業者にも聞いたら、中大塩の中にもそういう場所がいっぱいあるということだった。市の方に外国人がわかるパンフレットがないか聞いたら、英語、中国語、韓国語はあるがそれ以外はないとのことだった。今回分かったのは、タイの人たちだった。今回、会社を突き止めたら、その会社はすぐ総務の人が来て申し訳ないということだった。その会社も3か月ぐらいでどんどん人が変わり、次は違う国の人に来るという話だった。そういう問題があるので、市としてもリサイクルについて外国人を雇っている企業に対し、もう少しパンフレットとか広報活動とか、PRをしてほしい。それが一番住みよいまちづくりなんだろうと思う。

市長：ゴミばかりでなく、生活一般の外国人向けのガイドブックは5か国語で作っている。英語、韓国語、中国語、ポルトガル語、タガログ語の5つ。確かにこれではタイ人の方はわからないと思う。全てに即というのは難しいかもしれないが、企業にしっかりと願をするということはすぐできるので、そんな観点で、企業で外国人を採用した場合は、こういうことを注意してほしいと願する。

市民：今回は担当者にそういう話をしたら、会長と奥さんがすぐ来られて、非常にご迷惑をかけた。今後は、ごみは会社の方に持ち込ませるという対応を取っていただいた。出す人は全く日本の風土をわかっていないから、金曜日になると可燃ごみと一緒に出し

ていた。その日に出すのはなんでもいいんだという感じだった。その辺を会社をお願いしたい。

市長：すぐにそういった対応を取りたいと思う。

市民：高齢者支援の居場所づくりとある。これは公民館とか、空き家を利用するということだと思うが、空き家を使った場合に、家賃とか、光熱費はその会できれないといけないのか、市で面倒をみてもらえるのか聞きたい。

市長：中大塩の公民館は市の職員がいるため他とは違うが、ほかの区の公民館となると、夜会議をやるとか、何かの村祭りがあるというときは空いているが、昼間はほとんど閉まっている。絶対もったいないと思う。区民が活用するわけだから村の公民館であればただでいい。今も鍵を借りて活動に使うことはできるだろうが、昔は公民館に小遣いさんがいた。その方がお茶を出してくれたり、面倒を見てくれたりした。そんな人をお願いして、そんなに高い給料は出せないけれどそれは市の方で支援をしようと、あとの運営は皆さんでということができるのではないかと考えている。現に糸萱区では、農協が閉鎖したため、そのスペースを利用して、居場所を作っている。かなり子どもなどもそこで遊んでいるようだ。そんなことをイメージしている。公民館よりアットホームな空き家の方がいいという場合、その家賃を市の方で見るのかというのは、何らかの支援の仕組みづくりをしていかななくてはいけないと考えている。ただ全部市が丸囲いということは考えていない。ゆいわーくの中にあるように、これからの活動は自立という部分も大事になってくる。仕組みは一緒になって考えていく。居場所づくりには、市もしっかり支援をしていきたいという取り組みを、第5次の計画の中にはしっかりと入れていきたいと考えている。市全体のまち懇をやった時に、子どもの居場所づくりということで私が提案したが、空き家丸ごと1軒子どもたちに自由に使えと提供したら子供たちは想像力でいろんな遊びを考えるのではないかと。子どもの教育にもなる。釘を使って多少指を打ったとか、ちょっとしたけがはした方がいいと考えている。決定的な危ないことはさせてはいけませんが、遊んでいて襖を破いたとかいうのはいいかなと考えている。そんな風に空き家を使えたらいいなと考えている。

市民：小中一貫教育について聞きたいが、今日の話では、全体としてはなんとなくわかるが、具体的には何をやるのかというところが一つわからない。先ほども話があったが、中大塩地区も3つの小学校に分かれるという状態。それぞれ小学校の特徴ある教育方針で指導をしているという中で、果たして中学にまとまった時に一貫した教育という面から見て、それができるのかどうか。少子化になった時に、学校により1学年が10人以下になるというような学校も出てくる。また、ある学校では、1学年でも4クラス、5

クラスとなるような学校ができる。それが中学に移行してきたときに、それぞれ違う教育の中で一貫した教育方針を持ってそれができるのかどうか。小学生の児童が減っても教育長さんは統廃合は行わないという考え方をしていると新聞にも載っていた。人口減少となった時のことを考えると、経済的な理由も含めて、一つの地域で3つにも小学校が分かれている。統一していった方がいいのではないか。一クラス1人や2人になるような地域の学校を本当に存続させるべきかどうかと。統廃合を考えていくのが将来的に茅野市のためになるのではないかと考えているが、その辺の考えをお聞きしたい。

教育長：小中一貫について、私たちも何年間かけて全国各地の小中一貫を見ている。多くの小中一貫校がおこなっているというのが、中学と小学校の建物を一緒にするとか、隣同士とか、少し離れたところで、運動会の時に中学生がお手伝いをするとか、生徒会と児童会の交流活動をやるとか、そういうことが主力になっている。それはそれで間違えていないわけだが、ただそういう交流の場だけで小学生と中学生が触れ合っているだけであまり中身を感じない。そこで、教え方を共通化していく、授業を共通の考えに立ってやっていく、というのを大きな柱にするというのが一つで、これは新しい小中一貫教育の方向ということで全国から注目され始めている。それを基盤としたうえで、いわゆる小学生と中学生の交流活動を強くやっていくことを考えている。今日、北部中の図書委員会の子どもたちから電話がかかってきて、米沢小に行ってぜひ朝の読み聞かせとペープサートをやりたい、については交通手段を教育委員会で何とかしてくれと。読書の読み聞かせとか、そういう交流的な面もしっかりやっていくというわけで、全国各地である小中一貫教育プラスアルファの内容を付け加えていくという考え。あと小学校と小学校との連携の問題で、例えば米沢小学校と豊平小学校がどうやって一緒に活動を共通でやっていくかとなった時に地理的に離れていて困難な問題がある。それは市バスを利用して、米沢小と豊平小の子どもたちが合同でいじめノックアウト集会の様なものを作っていくというのと、ICTを利用したテレビ会議の様なものも現在検討している。できるだけ関わっていく方向で考えている。あとまだいろいろな工夫があるが、新しい取り組みということで一步一步進めていく。統廃合は、現在の児童数の場合は統廃合をするかどうかは検討の段階にないと思う。教育活動に支障をきたすところまではしていない。ただし、子どもの人数によって支障をきたす、あるいは地域の方のご意見があるならば十分お聞きして検討していきたいと思う。ただそのうえで学校は地域の核である。地域が生み出してきたものが学校であり、学校にはその地域の歴史が全て詰まっている、そういう原則はあくまで大切にしていきたいと思う。子どもたちの育ちという面では、気持ちとしては、統廃合はしたくないが、教育的効果を考えた時には十分考えていく必要があると思う。

市長：この問題もまだまだ難しい面があると思う。教育委員会と話をした時に、いじわ

るな質問をして、米沢小学校は、永明中に行く生徒と北部中に行く生徒がいる。米沢小の特色ある教育が全部永明に行くのであれば永明と連携すればいいが、一部は北部に行く。北部にも永明にも伝統のある教育がある。米沢小学校はその両方を見ながら米沢小学校の子どもたちに接しなければいけない。豊平の場合は、3つになる。北部に行く子、東部に行く子、永明に行く子。豊平小学校の伝統ある教育はできるが、中学校を見据えてあなたはこう、あなたはこうということになる。これでどうやって連携を取るのかという話をした。この問題には簡単にはいかない部分があると思うが、教え方に何を中心に置くのかということでは、小中どこに行っても同じ教え方をしていく、このことはそうだよなと私も思っている。それが先生のレベルを上げることにもなるのかなという期待がある。

市民：小中一貫教育の推進というお話をいただいたが、諏訪の平らでは数年前に中高一貫校ができて大変人気があると理解をしている。その辺の中高一貫教育というのも、考え方としては中学高校で同じような考え方に基づいて教えていくというのが教育理念かと思うが、小中一貫教育と、中高一貫教育との住み分け、考え方の整合性についてお尋ねしたい。

教育長：中高一貫教育の場合、中学は市立になり高校は県立になる。そうすると茅野市の場合、例えば今の4中学校とどこかの高校を一貫校にするというのは、市立と県立でできないことがある。高校はそれぞれのお考えで選択していくということで難しい。あと人事面がある。ということで、茅野市にも中高一貫教育というのがあれば非常に素晴らしいと思うが、現状ではとても無理。諏訪地方で行われている清陵中学清陵高校の中高一貫教育だが、その中高一貫教育がこれからどうなっていくのかというのがいよいよ清陵中で成果を出していくということになる。その結果を見ながら私たちも考えたい。小中一貫教育と中高一貫教育の住み分けですが、小中一貫教育は子供たちの育ちを一貫していく。中高も同じ。ただ小から中に行って、中が真ん中に入って、中高一貫があったらその中学生はどうするかという2つの選択になる。ただ現状の場合は小中一貫が主であるし、小学校から中学を選択するときに、6年生の子どもたちが茅野市立の中学を選択するのか、県立清陵中学を選択するのかということによって2つのうち1つを選択する。現在のところでは、小中一貫ということと、中高一貫ということでは矛盾は起こさないと考えている。ただ長い目で考えた時に、中高一貫というのもどこか頭の隅になければいけないのではないかな。先ほどから出ている茅野市の良さをもっと生かしていくとなった時に、茅野にずっといてくれる子どもたちを育てることも大切だと思う。

市長：中高で行くことも一つの選択肢だと思うが、中学から高校に進むときにフロンテ

ィア精神で新たな世界に入っていくという、高校生くらいだったらそういう選択肢、行動も必要になってくるのではないかと個人的には思っている。中高一貫がいけないというわけではないが、節目節目で新しい世界に入っていくチャレンジ精神、自分で扉を開く。高校から大学もそうかと思うが、そういったものを小中一貫の中で子どもたちにしっかりと持ってもらえば一番うれしいと思う。もし清陵高校を受けるとしたら、清陵中学から来た連中なんかには負けるもんかという形で北部中学校からチャレンジするみたいな気概をこの小中一貫で授けることができれば嬉しいと思っている。

市民：中大塩地区の北側に「北の久保川」という川が流れている。確認したところ、北の久保川の法面の管理は市がやっていると聞いた。ところが、4区の第2区民会館から東側、上流側は、年に2回、市でシルバー人材センターを頼んで草刈を行っている。一方、下流のイースタン側の法面と団地側の法面は草刈が行われていない。なぜそうなっているのか。同じように草刈をしていただけるのかどうか聞きたい。

市長：今私がきちんと把握していないので正確なお答えができなくて申し訳ないが、例えば、向ヶ丘団地などでは法面などで区が持っている土地もある。そこをどうするかという問題もよく市長へのメールでいただく。市の土地であるならば、市で草刈などしなければいけない。下流のイースタンさんの法面も市の法面であるなら市の方できちんと草刈などしなければいけないと思うので、そこは帰って担当課と確認をしてお答えをしたい。地区コミュニティセンターの所長をとおして区長会長に回答をする。

市民：デジタル無線は、とても多機能なものを配備していただきありがとうございます。皆さんの時間もありますので、担当の部長さんとあとでお話したい。

市長：多機能すぎて難しい面もあるので、毎年の防災訓練の中で使えるように。優れものだが優れもの過ぎていうことを聞かない場合もある。

市長：まだご発言もあろうかと思いますが、今日皆さんから貴重なご意見をいただきました。第5次茅野市総合計画の中に1つでも多く反映させていきたいと思っておりますし、ゴミ出しの件のようにすぐに行動を起こさなければいけないことはすぐに起こしていきます。お忙しい中2時間有意義な時間を過ごさせていただきました。一緒になっていいまちづくりをしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。今日はありがとうございました。

午後9時10分終了